

開かれた議会、市民により身近な議会 ～意見交換会を実施～

民生文教委員会委員と教育委員会委員（8月27日）

新型コロナウイルス感染症対策に配慮した新しい生活様式における各施設（小中学校、幼稚園・保育所・認定こども園、放課後児童クラブ・子育て支援拠点施設、学校給食、育ちの森、市内文化施設など）での取り組みについて報告を受けた。また、市内小中学校に導入しているタブレットのアプリ「ロイノート」で、模擬授業を体験した。

◆出席委員からの発言

- ・新型コロナウイルス感染症の消毒や検温対策が教員などに業務負担になっているのではないかと。
- ・タブレットを導入しているが、休業中の小中学校ではどのように使われたのか。
- ・小中学校の児童生徒の中には、自宅にインターネット環境のない家庭もあり、格差が生じていると感じる。
- ・今後1人1台タブレットが整備されるが、第2・3波により、学校が休業になった際、自宅での授業が円滑に進められる準備がどのくらい進んでいるのか。



建設経済委員会委員と袋井商工会議所（7月30日）



コロナ禍での市内産業界の現状などの報告を受け、市議会における支援策の審議や今後の政策立案に役立てるために、意見交換会を実施した。

当日は、袋井商工会議所の川越専務理事から、会員を対象にしたアンケート調査の結果について報告があり、新型コロナウイルス感染症による影響については、8割を超える事業者に出ている。売上減少率が前年比50%を超えた事業者が約24%であるなど、厳しい現状が示された。

続いて、袋井商工会議所の各部会（商業部会、工業部会、建設業部会、サービス業部会、おもてなし部会、農業産業部会）ごとの報告があり、意見交換では、従業員のPCR検査体制や風評被害への対策など課題について検討した。

買うことで

ウイズコロナの経済対策を進めています。8月にプレミアム率20%の「ふくろい応援商品券」が3万5,000冊発行され、4億2,000万円が地元経済に還元されます。また、「ふるさと農産物応援」事業(8月、10月)では、地元主要農産物を県外の親戚などに送ることで1,500万円の販売と今後の販路開拓を後押ししています。袋井で買うという行動が、地元を守っていています。



袋井には、いいもの、いい店いっぱいあるネ

(広報委員：田中克周)



『Go Team Ireland』ポロシャツで議場を緑一色に!

東京オリンピック・パラリンピックに向けて、アイルランドオリンピックチームのキャンプ地「ホストタウン袋井市」をPRする企画として、令和2年9月市議会定例会で、市職員を含む出席者全員が「Go Team Ireland」ポロシャツを着用しました。

